

武石地域自治センター

令和3年度 重点目標

- 1 参加と協働による地域づくりの推進
- 2 まちづくり活動拠点の整備と地域に根ざした医療の充実
- 3 多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進及び道路交通環境の整備

重点目標	参加と協働による地域づくりの推進		部局名	武石地域自治センター	優先順位	1 位
総合計画における 位置付け	第1編 市民が主役のまちづくり 第1章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第1節 参加と協働による自治の推進		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	Ⅲ-1-② 市内全域の繋がりにより均衡ある発展をめざし、各地域の市民と行政との定期的な交流(サテライト市長室)を推進、地域の強みを生かす地域内分権を推進。		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住みたいと思うまちづくりへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2)支える財政基盤の改革 エ 受益と負担のあり方の見直し					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石御柱大祭事業の推進は、寅・申の年に開催される武石地域の最も大きな伝事であり、今後とも継続して行っていかなければならない伝統行事です。 ○ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、住民自治組織が市民の参加と協働によるまちづくりをさらに推進するため、意見交換や学習会の機会を設け理解を共有しながら地域内分権を進めていく必要があります。 地域再生マネージャー事業「短期診断」は、ふるさと財団から外部専門家の派遣を受け、現地調査を行い、地域の課題の超出及び課題解決に向けた方向性の助言が行われます。 ○ スマートシティ化への取組は、上田市スマートシティ推進計画に基づき推進します。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進は、平成22年度策定の当初構想を「美しい武石地域はの景観を存続する」ために自治連、地域協議会、住民自治組織、市の四者で見直し、令和元年度末に第二次武石地域全域公園化構想が策定されたことから、改めて地域住民へ周知するとともに、引き続き、樹木破碎機、乗用草刈機、畦草刈機等の貸出をはじめ、獣害対策、花木苗支給等についても協働による景観整備を進める必要があります。 余里地域花桃の里運営は、武石地域の地区における代表的な住民組織の取組であり、武石地域全域公園化構想の推進からも運営支援を継続する必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石御柱大祭事業の推進は、市民が市民協働の精神を発揮し、市内の一体感を深めるとともに、地域間の連携の促進を図り、市民全体に潤いと活力を与え、上田市の元気を生み出す、市民参加をより大事にしたイベントです。 ○ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、地域再生マネージャー事業「短期診断」でふるさと財団から外部専門家の視察を行う事で、地域の課題と問題を明確にし、改善に取り組むことを目指します。 自治基本条例の基本理念を踏まえ、地域住民が自ら参加し地域内の課題を解決できる住民自治組織「住みよい武石をつくる会」を支援し、地域住民と行政の協働による地域自治を推進し、地域が健康で元気なまちを創りあげるにより「健(康)幸(福)都市」の実現を目指します。 ○ スマートシティ化への取組は、個別施策について関係課とともに推進します。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想の理念を広く周知し、自らの地域を自らの手で美しくする活動を積極的に推進することで地域コミュニティの活性化が図られます。 余里地域花桃の里運営は、引き続き運営支援することにより、公園化構想の推進が図られます。 	該当するSDGsの目標	  			
	取組項目及び方法・手段(何をどのように)	期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標(どの水準まで)	中間報告 (目標に対する進捗状況・進捗度)及び (中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点)	期末報告(目標に対する達成状況・達成度)	
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石御柱大祭事業の推進 (1) おねり行列実行委員会の開催 (2) 御柱大祭に向けた事業調整と支援 (3) 地域住民と協働し、上田市指定文化財を継承する取組 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 必要に応じておねり実行委員会の開催 (2) 関係団体との調整と支援 (3) 地域自治センターだより武石、ホームページでのPR等 	<ul style="list-style-type: none"> (1) おねり行事実行委員会を6月30日に開催し、規約、予算等の承認を得た。 (2) 4月16日、5月18日、6月30日、9月28日に関係団体との調整を行った。 (3) 地域自治センターだより武石 5月16日号で、御柱大祭関係行事の周知を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) おねり行事を執行するため準備を進めてきたが、県のまん延防止重点措置の適用がされる中、おねり行列は中止。 (2) 御柱大祭のみの開催。随時、関係団体との調整を図った。 (3) 地域自治センターだより武石 3月16日号、エアートーク、メール配信で武石御柱おねり行事の「おねり行事は中止、御柱曳き及び建御柱は執行する旨周知を図った。各戸へ御柱大祭のチラシを配布した。 	
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進 (1) 地域再生マネージャー事業「短期診断」の実施と検証 (2) 発展的継続ができるメニューの選択に向けた取組 (3) 住民自治組織との連携とまちづくり計画に基づく事業支援 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 事業の実施 1回 (2泊3日) 検証 1回以上 (2) 事業に応じた国の財政支援の選定 随時 (3) 運営委員会への参加と地域担当職員の支援 随時 	<ul style="list-style-type: none"> (1) (2)開催に向けふるさと財団、関係部局との調整を行ったが、新型コロナウイルス感染症感染者の増加を受けて、7月19日から21日までの日程を10月27日から29日までに延期した。 (3) 地域担当職員が、部会、役員会、各種行事に参画するなど随時支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) (2)延期となっていた、地域再生マネージャー事業「短期診断」を10月27日から29日までの3日間実施。住民自治組織も参加し、武石地域の魅力と課題を検証した。 (3) 地域担当職員が、部会、役員会、各種行事に参画するなど随時支援を行った。 	
③	<ul style="list-style-type: none"> ○ スマートシティ化への取組 (1) 関係課との事業推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 4月～3月 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 会議等に参加 随時 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 個別施策ロードマップの策定を行い、関係する会議への出席、現地確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 個別施策ロードマップの策定を行い、関係する会議への出席。 武石地域が過疎地域に認定されたことから、次年度の事業実施に向け、県へ事業の申請を行った。 	

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
④	○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進 （1）構想の周知と地域住民による協働事業の支援 （2）花木苗等支給事業 （3）樹木破碎機、草刈機の貸出事業 （4）余里一里花桃の里運営支援事業	（1）4月～3月 （2）4月～3月 （3）4月～3月 （4）4月～5月	（1）地域自治センターだより武石 ホームページ掲載 2回以上 （2）3自治会等以上へ花木苗等の配布 （3）自治会等へ延べ 10回以上 （4）地域活動団体等との協働	（1）地域自治センターだより武石 9月16日号で、第二次武石地域全域公園化構想に係る上田市の主な取組状況と各種機械貸出事業の周知を図った。 （2）1自治会に苗木を支給、支給検討中の1自治会に制度について説明を行った。 （3）貸出事業は、樹木破碎機が1回、乗用草刈機が9回、畔草刈機が2回の貸出があった。 （4）仮設トイレ設置は、4月16日から5月5日まで行ったが、シャトルバス運行等は、中止した。	（1）公園化構想の課題でもあった「あじさい公園」について、郷土の森整備協議会代表者と協議。現在のところ復活は難しいとの結論に至った。 （2）コロナ禍により多くの自治会において緑化推進に係る活動が縮小傾向となる中、1自治会に苗木を支給した。 （3）貸出事業については、樹木破碎機が3回、乗用草刈機が11回、 畔草刈機が2回の利用があり、景観整備が図られた。 （4）仮設トイレ設置:4/16～5/5、シャトルバス等は中止
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点 ・ 住民自治組織との連携と「小さな拠点」づくり事業の推進は、地域再生マネージャー事業「短期診断」の実施することで、まちづくり計画での課題についてを協働で取組みます。 ・ 住民自治組織が主体的に取組む活動を支援し、市民協働の取り組みを推進します。 ・ 第二次武石地域全域公園化構想の関連事業の推進は、自治連、地域協議会、住民自治組織、市のとの協働で事業を推進します。			○取組による効果・残された課題 ・ 武石御柱おねり事業については、おねり行列が中止となったが、規模を縮小し、他のイベントと絡め、披露したい。 ・ 地域再生マネージャー「短期診断」で検証した魅力や課題を活かし、地域の発展につなげたい。 ・ スマートシティ化への取組は、武石地域が過指定されることから、県へ事業実施に向け、交付金の申請をした。今後も過疎地域に対する交付金等の申請をし、事業を実施していく必要がある。 ・ 公園化構想関連事業では積極的な広報により機械の貸出事業が広く浸透、市民協働による環境整備・美化活動の推進が図られた。 ・ 余里一里花桃の里運営支援は、武石地域全域公園化構想の推進に重要な取組のため、引き続き、地元推進団体等との協働による取組が必要です。	

重点目標	まちづくり活動拠点の整備と地域に根ざした医療の充実		部局名	武石地域自治センター	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全安心に暮らせる環境の整備 第7節 地域防災力の向上と災害対応能力の強化		上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け		Ⅲ-2-② 自主防災組織・消防団の育成・支援を強化、地域防災力の強化を図るとともに、火災や事前災害、大規模災害から命や財産を守る。 地域に不可欠な消防組織や上田市防災支援協会(建設業界)との連携により防災力を高め、安全で安心して暮らせる上田市を再構築。	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 支える財政基盤の改革 ウ 市有財産の適正な管理と利活用				
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石地域総合センター整備は、旧武石地域自治センター、旧武石健康センターの解体、駐車場・広場整備事業の検討と施設の適正な維持管理と利用促進への取組を行う事により、総合センター周辺の景観を整える必要があります。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、全国的に自然災害が頻発する中、武石地域では予めから地域内の全自治会で災害時要援護者登録制度による住民支えあいマップが完成しており、自治会ごとの防災、避難体制の整備を進めてきましたが、武石地域は特に高齢化が進行していることから、各種警報発令時および災害時の避難方法、防災の備え、災害時の「自助・共助」等について、さらに住民自ら積極的に取組む自主防災組織の育成が必要です。 ○ 武石診療所の維持・充実、あり方の検討等は、地域の人口減少とともに患者数は減少傾向にあり、患者数の増加策や診療所の役割・業務形態の見直しなどが求められています。地域で一番身近な医療機関として、高齢者のみならず誰もが安心して医療が受けられるよう安定的な医療提供体制を構築していくことが必要であり、診療所のあり方が問われています。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石地域総合センター整備は、機能的で利便性の高い市民団体の活動拠点および防災拠点とする武石地域総合センターを整備し、市民との連携を深めることにより多くの市民の社会参加、健康づくり、生きがい対策、地域の賑わいの創出まで含めた市民協働による開かれた地域づくりが推進できます。 施設集約と規模の適正化により、利便性の向上と維持管理経費の縮減、行政効率の向上が図られ、環境に配慮した施設の構造と適正な設備機器の導入によりCO2排出量の削減も期待できます。 ○ 武石地域総合センターの運用に当たり、公民館等関係機関との協議を図り、適正な維持管理と利用促進の取組を行います。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、自主防災組織リーダー研修、各自治会での防災訓練等により、地域住民の防災に対する認識と能力を高め、万が一の災害時にも被害を最小限に留めるとともに、互いに支え合う地域づくりを推進し暮らしの安心につなげます。 ○ 武石診療所の維持・充実、あり方の検討等は、武石地域唯一の医療機関として、今後も引き続き医療サービスを提供するとともに、医療だけでなく保健師や関係機関と連携を図り地域住民の健康増進に寄与します。 また、これまでの在宅医療を大事に家庭医として、プライマリケア(患者が最初に接する医療の段階)を実践し、介護、福祉を含めた生活全般をケアできるような診療体制の充実と診療所の方向付けを示します。さらに、新型コロナウイルス感染予防対策を適切に行い、院内感染者0(ゼロ)を目指します。 		該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段(何をどのように)		期間・期限(いつ・いつまでに)	数値目標(どの水準まで)		中間報告 (目標に対する進捗状況・進捗度)及び (中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点)	
① ○ 武石地域総合センター整備 (1) 旧施設解体事業 (2) 駐車場、広場整備事業の検討 (3) 施設の適正な維持管理と利用促進への取組(武石公民館と協賛)		(1) 4月~3月 (2) 4月~3月 (3) 4月~3月	(1) 解体工事完了 (2) 関係各課と調整会議 5回以上 (3) 武石地域総合センター竣工記念の冠事業 随時		(1) 6月に工事契約を締結し、年内竣工日程のもと順調に解体工事が進められている。 (2) 関係課担当者との検討を始めたが、全体調整会議には至っていない。 (3) 新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、貸室業務を行った。コロナ禍により貸室の利用が少ない状況の中、竣工記念の冠事業が1件行われた。新たに図書室・学習室の利用促進・拡大の取組が行われ、10月からサービスの向上を図る予定である。	
② ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施 (1) 自主防災組織リーダー研修会の実施 (2) 防災訓練の実施		(1) 6月~3月 (2) 8月~3月	(1) 全18自治会対象 50人程度 (2) 開催参加者 90人程度		(1) 新型コロナウイルス感染症防止対策のもと、6月23日に開催した。自治会長、民生児童委員、女性消防隊等35人が参加した。 (2) コロナ禍により住民を参集しての開催は中止となったが、職員対象の新型コロナウイルス対策の訓練に参加し、知識の習得を図った。	
				期末報告(目標に対する達成状況・達成度)		
				(1) 旧自治センター、健康センター解体工事については、関係課所と調整を図り事業を完了した。 (2) 駐車場、広場整備事業については、関係課担当者との検討し、理事者協議を進めた。 (3) 施設の利用促進については、新型コロナウイルス感染症の状況により、貸館事業を控えているため、文化祭のみの実施となった。		
				(1) 実施予定の事業は前期で終了している。来年度以降の事業に反省を反映させたい。 (2) 防災システム操作訓練を危機管理防災課主導で行った。		

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
③	<p>○ 武石診療所の維持・充実、あり方の検討等</p> <p>(1) 診療所の課題整理と方向付け</p> <p>(2) 診療所のPR等情報発信</p> <p>(3) 診療所事業の充実 ・関係機関と連携し、地域住民の健康推進事業の充実 ・夜間・休日を利用した医療サービスの提供</p> <p>(4) 診療体制の充実 ・感染症対策の徹底 ・依田窪病院との連携を検討</p> <p>(5) ふるさと寄附金を活用した財源の確保</p> <p>(6) 医師確保対策の取り組み</p>	<p>(1) 4月～3月</p> <p>(2) 4月～3月</p> <p>(3) 4月～3月</p> <p>(4) 4月～3月</p> <p>(5) 4月～3月</p> <p>(6) 4月～3月</p>	<p>(1) 庁内検討会議の開催 年6回 地域協議会 諮問4月 答申9月</p> <p>(2) 自治センターだより 年6回 ホームページ、エリアトーク、メール、Twitterの配信 随時</p> <p>(3) 休日の予防接種の実施 年3回</p> <p>(4) 診療所内での感染症り患者 0人 依田窪病院との検討会議 年6回</p> <p>(5) 診療所基金への積立 20,000千円</p> <p>(6) R4.4以降の医師確保と診療体制の構築</p>	<p>(1) 4月開催の地域協議会へ諮問し、10月開催の地域協議会で答申予定である。</p> <p>(2) 地域自治センターだより武石5・7・9月号に「武石診療所通信」を掲載した。 HP更新・Twitterによる情報提供（随時）を行った。</p> <p>(3) 11月～12月の間に3回実施する予定である。</p> <p>(4) 院内感染り患者は0人で、集団ワクチン接種への協力（武石会場：5月～7月）を行った。 依田窪病院との検討会議（随時）を実施した。</p> <p>(5) 8月末時点で662件、10,496千円の寄附を募った。</p> <p>(6) 関係機関・近隣病院への相談、協議を実施した。</p>	<p>(1) 診療所のあり方について地域協議会からの答申（10月）を受け 市の方針案を策定（10月）、住民説明会等の開催（11月～1月） を経て市の方針を決定（1月）した。</p> <p>(2) 地域自治センターだより武石に「武石診療所通信」を掲載（11・1・3月）した。HP・Twitterによる情報提供（随時）を行った。</p> <p>(3) 11月～12月の間に2回実施した。</p> <p>(4) 院内感染り患者：0人 依田窪病院との検討会議（随時）を実施し、医師の確保等 令和4年度以降の診療体制について協議した。</p> <p>(5) 寄附：2,166件、45,801,691円 積立：24,251千円</p> <p>(6) 関係機関・近隣病院への相談、協議を実施し、令和4年度の診療体制の構築を図った。。</p>
特記事項	<p>○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点</p> <ul style="list-style-type: none"> 武石地域総合センター整備は、旧武石地域自治センター、旧武石健康センター解体事業、駐車場・広場整備事業の検討をし、武石地域総合センター竣工記念の冠事業を行うことで、シビックプライドを醸成します。 自主防災組織の育成と防災訓練の実施については、住民自治組織への協力を呼びかけ市民協働で取り組みます。 武石診療所の維持・充実、運営あり方の検討等については、武石地域唯一の医療機関として、安全で安心な医療の提供を行い、患者に寄り添った診療所を目指します。 			<p>○取組による効果・残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 駐車場、広場整備事業については、令和5年度の事業完了に向けて各種調整を図る必要があります。 自主防災組織の育成と防災訓練の実施については、今後も継続して住民自治組織への協力を呼びかけ市民協働で取り組む必要があります。 令和4年度の診療体制は整えることができましたが、今後、医師をはじめとする医療スタッフの確保が困難となることから、武石診療所のあり方についての方針に則り、国保依田窪病院との統合再編協議を進めます。 	

令和3年度 重点目標管理シート

重点目標	多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進及び道路交通環境の整備		部局名	武石地域自治センター	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進 第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興	上田再構築プラン「7つの挑戦」における位置付け	Ⅲ-3-② 6次産業化の取組み支援と上田の地域特性を生かした「上田ブランド」を育成・発展させ、世界に発信。			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1)住みたい住みたいと思うまちづくりへの改革 イ多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2)支える財政基盤の改革 エ受益と負担のあり方の見直し					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光施設等の管理、運営については、今後も公共施設マネジメントの取組が必要です。 ○ 武石番所ヶ原スキー場整備事業については、レストハウスが狭小のため安全性及び利便性の面での課題があり、施設の安全性を確認するために耐震診断の実施も必要があります。 ○ 県営中山間総合整備事業の推進については、地域の老朽化した農業生産基盤施設の改修や営農の効率化を図るため、計画的に進める必要があります。 ○ 実質化された「人・農地プラン」の実行については、農地の利用調整やマッチング等プランの推進に向け、積極的に取り組むことが重要です。 ○ 地域おこし協力隊による地域の活性化等に向けた取組を推進するため、隊員と行政、地域とが連携し、円滑に活動できるよう支援が必要です。 ○ 令和元年東日本台風被災箇所の復旧事業の推進は、甚大な被害が発生した農地農業用施設・公共土木施設・観光施設等の、計画的かつ速やかな復旧事業推進が必要です。 ○ 地域内人口の減少、高齢化により地域の魅力が低下しており、様々な課題が顕在化しています。地域の魅力を軸にした様々な展開により、交流人口の拡大や賑わいの創出、地域の活性化等を図る取組を進めていく必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光施設等の管理、運営については、時代の変化に対応させつつ有効に活用することで、必要なサービスの提供を将来にわたり継続していくことを目的とします。 ○ 武石番所ヶ原スキー場整備事業については、利用者数に充分対応できるレストハウスの規模に改築することで、安全性及び利便性の確保を図ります。 ○ 県営中山間総合整備事業については、地域の老朽化した農業生産基盤施設の改修等を計画的に整備推進することで、効率的な営農環境の確保を図ります。 ○ 地域おこし協力隊の活動支援は、任用された隊員が行政職員や地域住民とは異なる新しい視点、自由な発想や行動力により、観光・農業用既存施設の活用をはじめ将来的な起業・創業を視野に入れた活動を展開することで、新たな魅力の発掘や賑わいの創出に期待ができます。 ○ 令和元年東日本台風被災箇所の復旧事業の推進は、災害復旧事業の推進により、地域の安全・安心な生活環境の確保を図ります。 	該当するSDGsの目標				
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光施設等の管理、運営あり方の検討等 (1) 岳の湯温泉雲溪荘、武石番所ヶ原スキー場、武石温泉うつくしの湯、巢栗溪谷緑の広場（庁内検討会・指定管理者と意見交換会の開催） 	(1) 5月～3月	(1) 検討会等 5回以上 雲溪荘あり方アンケート調査を実施	(1) ア 4月27日に庁内検討会を実施 6月18日、8月26日、9月1日に指定管理者と意見交換会を実施した。 イ 雲溪荘のあり方を問うアンケート7月に実施し、現在結果を集計中である。	(1) ア 庁内検討会（4/27、12/25、3/9）を3回実施した。 イ 指定管理者と意見交換会（6/18、8/26、9/1）を3回実施した。 ウ 雲溪荘のあり方を問うアンケートを実施した。 エ 武石地域協議会へ情報提供を行い、意見書が提出された。	
②	<ul style="list-style-type: none"> ○ 武石番所ヶ原スキー場整備事業の推進 (1) スノーマシンの購入 (2) 耐震診断業務の委託 	(1) ～12月 (2) 4月～3月	(1) 納品 (2) 業務完了	(1) スノーマシンの購入については、5月13日に契約の締結を行った。 (2) 耐震診断業務の委託については、6月8日に委託契約の締結を行った。	(1) スノーマシンを11月30日に納品した。 (2) 耐震診断業務を3月28日に業務完了した。	
③	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県営中山間総合整備事業（美の郷地区）の推進（H29から継続事業） (1) 実施個所である地元との調整及び協議、説明会 	(1) 4月～ 3月	(1) 2工区 3回以上	(1) 事業対象2自治会（下本入・築地原）に今年度の事業の予定について連絡をした。 当初築地原工区の工事は、11月発注予定業者決定後地元調整を実施する予定である。	(1) 12月に築地原堰工区の水路改修工事が契約となり、工事実施に必要な河川占用協議を行い許可を得た。また、工事実施のための地元調整を行った。	
④	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実質化された人・農地プランの実行 (1) プラン実行に向けた取組 	(1) 4月～3月	(1) 関係者等との懇談 2回以上	(1) 地域の現状等について農業委員と情報を共有し、懇談会は、下半期に実施する予定である。	(1) コロナ禍により懇談会は未実施も、市の農政担当者会議でプランの実行に向けた課題の洗い出しや解決策を協議、次年度における事業の進め方等を確認した。	
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域おこし協力隊の活動支援 (1) 観光資源の利活用による地域の活性化等に向けた活動に関わる支援 	(1) 4月～3月	(1) 地域活性化イベントの開催支援、既存施設の利活用	(1) 地域団体への橋渡しによる交流促進及び観光施設等の維持管理や環境整備等への共同参加等による観光資源の現状確認、課題把握に係る支援を実施	(1) ふるさと名産センターの利活用に向けた実証実験と美ヶ原高原の魅力新たな方法により情報発信するための取組を支援した。	

	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
⑥	<p>○ 令和元年東日本台風被災箇所への復旧事業の推進</p> <p>(1) 補助公共土木災害復旧事業の計画的な推進 （工事発注、地元調整、施工管理）</p> <p>(2) 補助農業施設災害復旧事業の計画的な推進 （工事発注、地元調整、施工管理）</p> <p>(3) 焼山沢登山道の円滑な災害復旧工事の推進</p>	<p>(1) 4月～9月 4月～3月</p> <p>(2) 4月～6月 4月～3月</p> <p>(3) ～10月</p>	<p>(1) 工事発注 (2件) 工事現場進捗管理 (2件)</p> <p>(2) 工事発注 (3件) 工事現場進捗管理 (3件)</p> <p>(3) 竣工</p>	<p>(1) 6月に工事発注2件を完了した。 地元関係者と調整を行った。</p> <p>(2) 4月に工事発注3件を完了した。 地元関係者と1件調整を行った。</p> <p>(3) 4月23日に請負業者と、5月11日に東信森林管理署と現場確認を行った。</p>	<p>(1) 令和元年東日本台風の補助公共土木災害復旧事業については、令和3年度末で全工事（12件）完了となった。</p> <p>(2) 早期の発注により、予定通りに事業が進捗している。令和4年度には全工区完了する見込みである。</p> <p>(3) 災害復旧工事を11月11日にしゅん工した。</p>
特記事項	<p>○ 市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雲溪荘の利用促進を図るために、アンケートを実施してアイデアを募集して、使って残す活動を市民協働で取り組みます。 ・ 武石番ヶ原スキー場整備事業の推進は、施設を整備することで利用者の利便性を向上を図ります。 ・ 令和元年東日本台風被災箇所への復旧事業の推進は、施設を整備することで利用者の利便性を向上を図ります。 			<p>○ 取組による効果・残された課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岳の湯温泉雲溪荘のあり方を問うアンケートの実施を図りました。今後の雲溪荘のあり方について検討していく必要があります。 ・ 友好都市練馬区との交流については、新型コロナウイルスの影響により交流が出来ませんでした。アフターコロナを見据えた新たな相互交流を模索する必要があります。 ・ 令和元年東日本台風被災箇所への復旧事業の推進については、すべて完了となりました。 	